



見附市教育センターだより



〒954-0052

見附市学校町 2-7-9

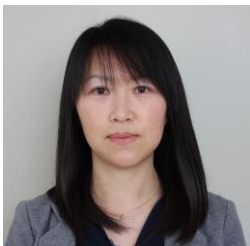
電話/Fax 0258-62-2343

E-mail mrisen@mitsuke-ngt.ed.jp

令和2年2月21日 NO.11

刈谷田川大堰(上新田)から

粟ヶ岳を望む



コミュニケーションを重視した読書活動

見附市教育センター運営委員（西中学校教頭） 田中 綾子

見附市では、「見附の子どもの本」として、乳幼児・小学生・中学生のそれぞれに向けたリストを挙げて、読書活動の推進に力を入れている。

現在、朝や昼の時間帯に毎日10分間程度の読書活動を行っている学校は多い。その目的は、授業前の落ち着いた雰囲気を作るためであったり、学習への集中力を高めるためであったりする。同時に読書習慣の形成や語彙力の向上、豊かな心の育成などを目的としているものもあるが、ややもすると単に、児童生徒に読書をさせるだけの活動になってはいないだろうか。

教育活動として読書活動を設定する以上、ねらいをもって活動を充実させ、読書を通して児童生徒に力を付けるという視点が重要である。そこで、読書活動が児童生徒の力を高められるものとなるよう見直す必要がある。

近年、コミュニケーションを重視した読書活動が導入され始めている。文学に

おいても非文学のテーマにおいても、ブックトーク、アニメーション、リテラチャー・サークル、ビブリオバトルといった関わり合いを取り入れた読書活動が実践されている。また、従来の「読書会」という語では、把握できないほどの幅広い読書活動が行われ、多くの人が相互に考えや感想を交流し合う「読書コミュニティ」の構築も広く認識されてきた。

これは、従来の「受容する読書活動」ではなく、自己の問いから主体的に課題をもち、自己の考えを他者に発信し、相互に見方や考え方を交流し共有する「発信する読書活動」の自然さが認識されているものと考えられる。そして、いずれの読書活動もコミュニケーションを意識し、これを積極的に取り入れているのが活動の特徴である。

急速に変化・拡大する情報化社会において「コミュニケーション能力の育成」を考えたとき、これらの読書活動の在り方は参考になるだろう。

巻頭写真に寄せて 社会科副読本「わたしたちの見附市」リニューアルです

◇私は以前、絹や綿を原料に織られたものが織物で、化学繊維で織られたものがニットだと思っていました。中島みゆきの曲に「糸」があります。この曲のサビは「♪縦の糸はあなた 横の糸は私 織りなす布は いつか誰かを暖めうるかもしれない」と歌われますが、この歌のように、縦糸と横糸を交互にくぐらせてつくった生地が織物で、一本の糸をループ状に編んだ生地がニットです。原料の違いではなく、織りの違いなのです。

◇現在、新年度から使用する「わたしたちのまち見附市」の改訂作業が、川崎英郎校長先生（上北谷小）を委員長に進められています。この織物やニットだけではなく、新学習指導要領に対応した全面改訂の副読本作りが行われていて、この作業に私も入れて頂いています。

私の担当が「刈谷田川と人々の暮らし」で、寒かったこの日、現在の『刈谷田川大堰』の写真を撮りに行きました。巻頭写真は、大堰から市街地方面を見たものです。良い副読本になるようメンバー全員頑張っていますので、ぜひ有効活用してください。余談ですが、刈谷田川の整備された土手を、熊や猪が下流部方面に進んだのかと思うと、少し怖くなりました。

コラム ー 保護者の力を活用した「学級づくり」を ー

◇昨年末（12/27）、NHKで『井上陽水 50周年 SP』が放送され、井上陽水ファンの私は、名曲に酔いしれました。歌が上手い歌手も歳を取ると音域が狭まって、その当時（流行していた頃）に聴いた曲と「違うなあ。」と感ずることが多いものです。ですが、井上陽水は、古希を過ぎた今も、その曲が発表された当時のままの素敵な歌声でした。また、彼の歌は歌唱力だけでなく、哲学的な文章で綴られた歌詞にも大きな魅力があります。涙腺が弱くなり、「傘がない」「夢の中へ」などを聴くと、こみ上げてくるものがあります。

さらに、忘れられない曲が「少年時代」です。この曲がヒットした1991年、私はN市のI小学校で6年4組の担任をしておりました。この時の思い出として一本のビデオがあります。これは、保護者の皆さんが学級の様子を一年間の記録に残して下さったものです。修学旅行（出発式や帰校式）や運動会、音楽会などの行事に限らず、普段の授業（教科指導やお楽しみ会、展示会は前日準備の様子など）も、自由に学級に入って撮られたのです。この思い出ビデオのエンディング曲として「少年時代」が流れ、校舎やグラウンド、プール等の映像、最後に、子どもたち一人一人と私の映像、そして、名前が流れて終わるのです。保護者の皆さんのお陰で、このビデオ（現在はCD）は、私の教師生活最高の宝物になっています。

◇今、「働き方改革」が声高に叫ばれ、中学校の部活指導にボランティア支援とか部活時間の制限とかが打ち出され、この面では改善の方向にあります。一方で、一人一人の子どもに対応した確かな学力の定着に向けた授業改善や道徳の教科化、小学校に英語（5・6年生）やプログラミング教育など、新たな取組への準備等に時間を取られ、多忙感はなかなか減っていない現実があります。そこで、私から提案があります。私が保護者の皆さんに忘れられない思い出を作ったように、「学級の教育活動や学習指導の全てを担当が担うのではなく、出来るものは、保護者の皆さんの力を借りること」を考えてみてはいかがでしょうか。

「保護者に、参観日の授業を見てもらうだけでも緊張するのに、却って疲れてしまう。」と思われましたか。そうではないです。保護者の皆さんは必ず助けてくださいます。または、葛巻小学校の赤澤節子校長先生のご指導にあった、地域の皆さんの力をもっと考えられてはいかがでしょうか。頼りにされると、意気に感じる人は多いものです。『保護者や地域とともに歩む学校』は、掛け声だけではなく、実際に実践をして力となるのです。 (こ)

<4時から夢塾> 社会に開かれた教育課程実現への「優れた仕掛け人」

第16回の「4時から夢塾」は1月23日（木）に、葛巻小学校の赤澤節子校長先生から「コミュニティ・スクールくずまき」を演題に、ご指導を頂いた。指導内容を簡単に紹介する。

1 はじめに（ポジティブでオープンな教職員風土）

- ・葛巻小学校職員の信条 ① 子ども一人一人を大切にします ② プロとして責任を全うします ③ 笑顔と和のある職場にします
- ・明るい笑顔や笑いのある職場、笑いをもつ職員は、明るい子どもを育てる
- ・環境保全活動(E S D)、地域との絆活動、ダイナミックな生活科・総合的な学習、学習支援ボランティアの四つの学校教育で『社会に開かれた教育課程の実現』をめざす

2 「社会に開かれた教育課程の実現」への優れた三人の仕掛け人

(1) 総合的な学習の仕掛け人（年間の学びの周なな吟味、巧みな構想力）

- ・保護者とラウンドカフェ「働く」ことを考える（平成30年度実践）
- ・5年：日本の米作り・見附へ移住した人の米作り、魚沼の学校（石打小・広神西小）との交流（令和元年度実践）

(2) 学力向上の仕掛け人（やらされる研修でなく、やりたい研修へ～確実なPDCAサイクル構築）

- ・考えを整理するためのプログラミング的思考を活用した授業
- ・学びの葛巻小スタイル・・・45分を限りなく子どもの活動に充てる、発問・説明・指示は極力少なく、明確な指示・明確な活動・考えさせる場面の時間確保、1時間に一事など

(3) 図書館教育の仕掛け人（心を豊かにする読書活動の充実）

- ・メディア時間を読書時間に変える、先生方・地域を巻き込んだ読書の取組・・・図書室が大賑わい
- ・図書館部からの提案（2学期の読書計画と国語科での取組の計画と提案）を職員研修で行う

3 まとめ（「三人の仕掛け人」は、地域・他団体とのコーディネーターがとてもうまい！）

- ・成果・・・くずまき子ども森やくりりんを誇れて、地域と学校が情報を共有できるようになった。
- ・課題・・・教職員の負担軽減・業務改善が進まない。地域コーディネーターの機能が不十分。学校の情報発信の工夫、上手なヘルプを。もっとCSの発展を・・・地域から育ててもらおう体制に。
- ・有能な職員に感謝！・・・CSを土台に働き方を推進し、持続可能な次世代の学校づくりに邁進する。



くりりんを語る赤澤先生



<参加者の声>

- ・職場環境は子どもたちの笑顔へと繋がっていく。葛巻小はそれが出来ている学校だと感じている。
- ・温かく学びの多い職場に働いていることに感謝。やりたいを応援してもらえる環境は有り難い。
- ・先生方の良い所を常に見て褒めてくださることが素敵だ。労ってもらおうと嬉しい気持ちになる。
- ・温かな学校経営。様々な人を応援団にして豊かな教育活動を進めていること等、多くを学んだ。
- ・取組が一貫したねらいの下、子どもも職員も地域も楽しんで活動している姿が目に見えました。

11月20日(水)、神奈川県川崎市小学校教育研究会特別活動部会の授業研究会に参加をした。視察のねらいは、学級活動での子どもの見取り方や子ども同士の関わり方を学ぶこと、学級活動を学級経営にどのように生かしているのかを学ぶことである。

1 視察校について

(1) 視察校の概要 = 神奈川県川崎市立百合ヶ丘小学校 =

- ・昭和40年4月1日に、西生田小学校より分離独立して開校。
- ・児童数は930人。(平成31年4月5日現在)
- ・学校教育目標：笑顔あふれる学校（・明るい子・よく考える子・がんばる子）



2 研修について

(1) 研究主題 「夢や希望をもち、主体的に生きる力を育む特別活動」

(2) 研修内容 二つの授業参観・協議会への参加

- ・2年2組 学級活動 「かかりかつどうパワーアップ大きくせん」
- ・3年1組 学級活動 「3-1ミニ運動会をしよう」



(3) 研修で学んだこと

① 2年2組の参観を通して

- ・係活動は児童の得意なこと、好きなことを大切に可能性を広げていた。
- ・児童の楽しい気持ちを大切に、主体的意識を高め活動が生き生きとしていた。
- ・教師の日頃の観察・声掛けを丁寧に行い、児童の肯定感を高めていた。
- ・一人一人の意思決定がキャリア形成・自己実現に繋がること。活動の幅を広げるために、家庭との連携が大切なことを学び、改めて日常活動の重要性を感じた。

② 3年1組の参観を通して

- ・子どもたちに話し合い活動におけるコミュニケーションスキルが定着しており、友達の思いを受け入れる話し合い活動は、雰囲気がとても良かった。
- ・話し合いがどのように進んでも、結論を急がず見守ることの大切さを学んだ。
- ・結論を出せなかったことを次回自分たちで分析して、合意形成力（優先順位、条件付け、妥協点、譲る）を行っていくことを学んだ。教師の働きかけを分析した上で、次の課題を見つけ、意欲を引き出せるよう声掛けを行っていききたい。

(4) 今後に向けて

今回の研修で学んだことを基にして、次の二点を意識した実践を行っていききたい。

①年度当初に子どもたちと決めた学級目標を、常に意識させること。子どもたち31人が、学級目標を意識して日々の学習や生活を行うことで、子どもたち同士、教師と子どもたちとの関係がより良くなっていくと考える。

②モデルの提示や活動時間の確保をすること。子どもたちは、モデルがなければ目標が持てず、経験がなければ上達はしない。教師自身が多くの実践に触れ、知識を増やしていくことが大事だと感じた。子どもたちの実態を把握して、指導を繰り返しながら経験を積んでいけるようにしていきたい。

主体的に行動する子どもたちを育むためには、安心感を得て経験を積む場が大切である。そのことをいつも念頭に置き、指導を行っていききたい。

<科学教育部>



基礎技能研修会～初任者の先生方との学び～

教育センター科学教育部では【基礎技能研修会】で、小学校初任者の先生方のいる学校を訪問させて頂き、「理科の基本を身につける」「理科の楽しさを感じる」研修を実施しています。新潟県だけでなく、全国でも理科の指導に不安を抱える小学校の先生方が多くなってきています。実験の安全面だったり、準備の大変さだったり、不安や困難を抱える場面がいくつか考えられます。誰しも初めて経験することや、わからないことに対しては抵抗を感じやすく、苦手ととらえがちです。それは教師も児童・生徒も同じです。

理科というより科学は、生活の中に大きく根付いていて、経験と関連した事象も多いです。植物、動物などの生物分野から、地層や地形の変化といった地質分野、天気や星などの天体分野、水溶液や温度変化などの化学分野、電気や運動などの物理分野など多様な学習内容があり、その中でも得意・不得意や興味あり・興味なしと個人によって感じ方が異なります。

本来、「学ぶこと」は楽しいものです。今の生活は様々な科学の礎の上に成り立っており、多くの科学者たちは、自分が興味をもったこと、楽しいと思ったことを追究して発見や発明をしています。

本センターの【基礎技能研修会】の一回で、理科指導に対しての不安がなくなったり、苦手がなくなったりするものではありません。少しでも理科を楽しんでいると感じてもらったり、ちょっとやってみようかと考えてもらうきっかけになればと思っています。楽しさを感じて学びに向かうことは、教師も児童・生徒も同じです。今年度、研修会に参加された先生方で、来年度初めて理科を担当する先生もいるかもしれません。教師と児童・生徒が、学びが楽しいと思える授業を目指してください。困ったことがあれば教育センター科学教育部にご連絡ください。アドバイスや教材紹介をいたしますので、ぜひ活用ください。見附市の子どもたちが理科を楽しく学習できるように、先生方も楽しく理科の指導に取り組んでください。



葛巻小学校での顕微鏡実習



見附小学校での磁石の実習



研修会で紹介した音の教材

←新しく小学校3年生に音の学習が入ってきます。長さを変えたり、素材を変えたり音の大小や高低を比較することもできます

今回の土曜子ども科学教室では、冬の乾燥した時期に困る静電気を扱った実験を行いました。参加した子どもたちは、「ビリビリ!」ということもなく、静電気の力を使ってものをくっつけたり、ものを浮かせたりしながら楽しみました。もう春がすぐそばまで来ていますが、乾燥が続いているのでまだまだ静電気の実験は行うことができます。科学のおもしろさに触れる体験として、静電気の実験を行ってみてはいかがでしょうか。



発砲ビーズ風船

【実験方法例】

①電気クラゲ

ビニールテープを細かく裂いたものを用意し、ティッシュペーパーでこすります。塩化ビニールパイプや下敷きを、同様ティッシュペーパーでこすります。ビニールテープのクラゲを上にはり投げると、電気が反発して下敷きなどで浮かすことができます。

②ジャンピングアルミボール

下敷きをティッシュペーパーでこすり、ボール型に丸めたアルミホイルの上にかざします。そうすると下敷きとの間をアルミボールが行ったり来たりします。

③発砲ビーズ風船

風船の中に工作用の発砲ビーズを入れて膨らませます。その風船を振ると、中で発砲ビーズがこすれて帯電します。発砲ビーズの集まったところに指を近づけると動かすことができます。発砲ビーズ風船は、100円ショップで販売していることがあります。

○科学教育部への質問、疑問、要望等（先月号に引き続き紹介します。）

- ・5年の電磁石で楽しく電磁石の力を強くする方法を知った。モーターで実験、扇風機や自動車を動かすモーターの実物を教科書の写真だけでなく、実際に見せてあげたい。
⇒ 自動車のモーターなどになると、大学や自動車関連の企業に依頼すれば見ることができます。扇風機などは壊れた扇風機などがあれば、取り出すことができます。モーターであれば、ミニ四駆などのモーターが何種類もあり、おススメです。中学校で授業する時には、市販のモーターやスピーカーを分解して見せています。
- ・生活科の「〇〇先生」として、子どもたちに対応してほしい。（森、草花遊びなど）
⇒ 畑などの要望もありますが、当センターでは畑の研修を行っていません。栽培については、JAの方などに依頼すると講師として来ていただけます。森、草花遊びなど可能であれば対応いたしますが、市民の森などでは木工や植物、キノコなどに詳しい地域の方がいらっしゃいます。ご協力いただくと、子どもたちも充実した学習ができると思います。

